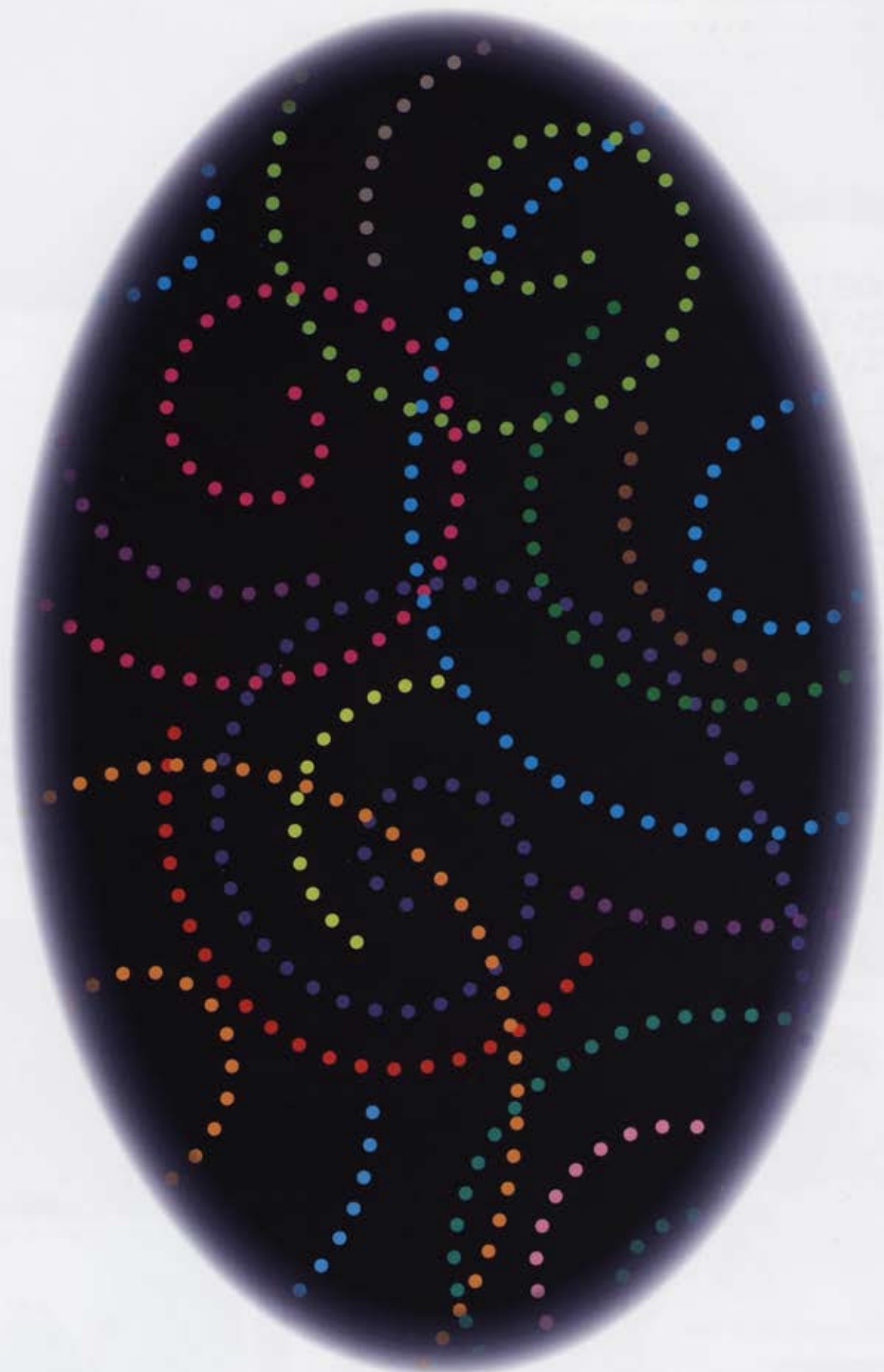


青銅の弥生都市

テクノポリス

吉野ヶ里をめぐる有明のクニグニ



4月19日土 ▶ 6月29日日

■開館時間:午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) ■休館日:毎週月曜日(5月5日[月]は開館、6日[火]は休館) ■入館料:個人
一般600円・高大生400円、小中生:65歳以上は無料、団体一般480円・高大生320円(団体は20名以上) ■所在地:〒594 和泉
市池上町443 TEL:0725-46-2162 ■交通:JR阪和線天王寺駅から525分「飯太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分

大阪府立弥生文化博物館

主催 大阪府立弥生文化博物館
産経新聞社・関西テレビ放送
協賛 大阪新聞・タリファジ
サンテレビ・リビング新築・ラジオ大阪

考古学セミナー

時間=午後2時～4時(1時より受付)
場所=1階ホール

- 第1回/5月11日(日) 高島忠平 氏講演「有明の世界」
- 第2回/5月25日(日) 岩永省三 氏講演「国産青銅器の開始と展開」
- 第3回/6月8日(日) 平尾良光 氏講演「自然科学からみた古代青銅器」
- 第4回/6月22日(日) 難波洋三 氏講演「九州の銅鐸と出雲の銅鐸」

●全回参加者には終了証と記念品を贈呈致します。
本館学芸員による展示解説……毎週日曜日と祝休日(午前11時～特別展示室)

全国の考古学ファンを驚かせた佐賀県吉野ヶ里遺跡。弥生時代の謎の女王国である「邪馬台国」が
あたかも見えてきたように報道されたことは、ご存じのとおりです。

では、この吉野ヶ里遺跡のある佐賀平野の弥生時代の様子はどうだったのでしょうか。

佐賀平野は有明海に面した肥沃な土地で、最近、朝鮮半島と同じ土器がたくさん発見されています。

有明海を通じた半島との交渉があったのでしょうか。

現在、佐賀平野では吉野ヶ里遺跡のみならず、新しい発見があいついでいます。

このような成果を一堂に集め、弥生時代の佐賀平野のクニグニを考えてみたいと思います。

ボクたちの住む有明の海には
いったいどんな文化が
栄えていたのかなあ？

1

邪馬台国は見えてきたか？

『魏志倭人伝』には邪馬台国は、「宮殿、物見楼、
城柵を厳かに設けていた」と書かれています。
この姿をほうふつとさせる最初の遺跡、それが
吉野ヶ里遺跡です。



▲富と権力のシンボルだった銅剣（鳥栖市柚比本村遺跡）



▲渡来人が見つかった朝鮮系無文土器（福岡県小都市三国の鼻遺跡）

主な展示物

- 重要文化財43点を含む佐賀平野出土の資料を網羅
- 吉野ヶ里遺跡出土品
(墳丘墓出土品一括を含む) 90点
- 柚比本村遺跡出土の玉で飾った剣の日本初の複製
- 実物による巨大甕棺の埋葬状況の再現
- 青銅器の鋳型を最新資料も含めて集大成
出品総数450点を予定



2

青銅のテクノポリス

いち早く青銅器の生産がはじまりました。銅剣、
銅矛のみならず、銅鐸も生産されていたよう
です。当時の「ハイテク集団」がいた、文字どおり
「テクノポリス」であったことがうかがわれます。

▼魚の形をほりこんだ鋳型と製品模型（鳥栖市柚比前田遺跡）



3

肥沃な佐賀平野のクニグニ

青銅器の生産を通じて比較的早く「王」や「クニ」が
あらわれてきます。吉野ヶ里遺跡以外でもひと
きわすばらしい青銅器を副葬している甕棺が発
見されています。佐賀平野には多くのクニグニ
があったようです。



▲中国からもたらされた動物文で飾った鏡（東海村三津永田遺跡）



▲お祭りに使った
赤く塗られた土器（吉野ヶ里遺跡）



なほるほど日本の青銅器は
ここから始まったのか！